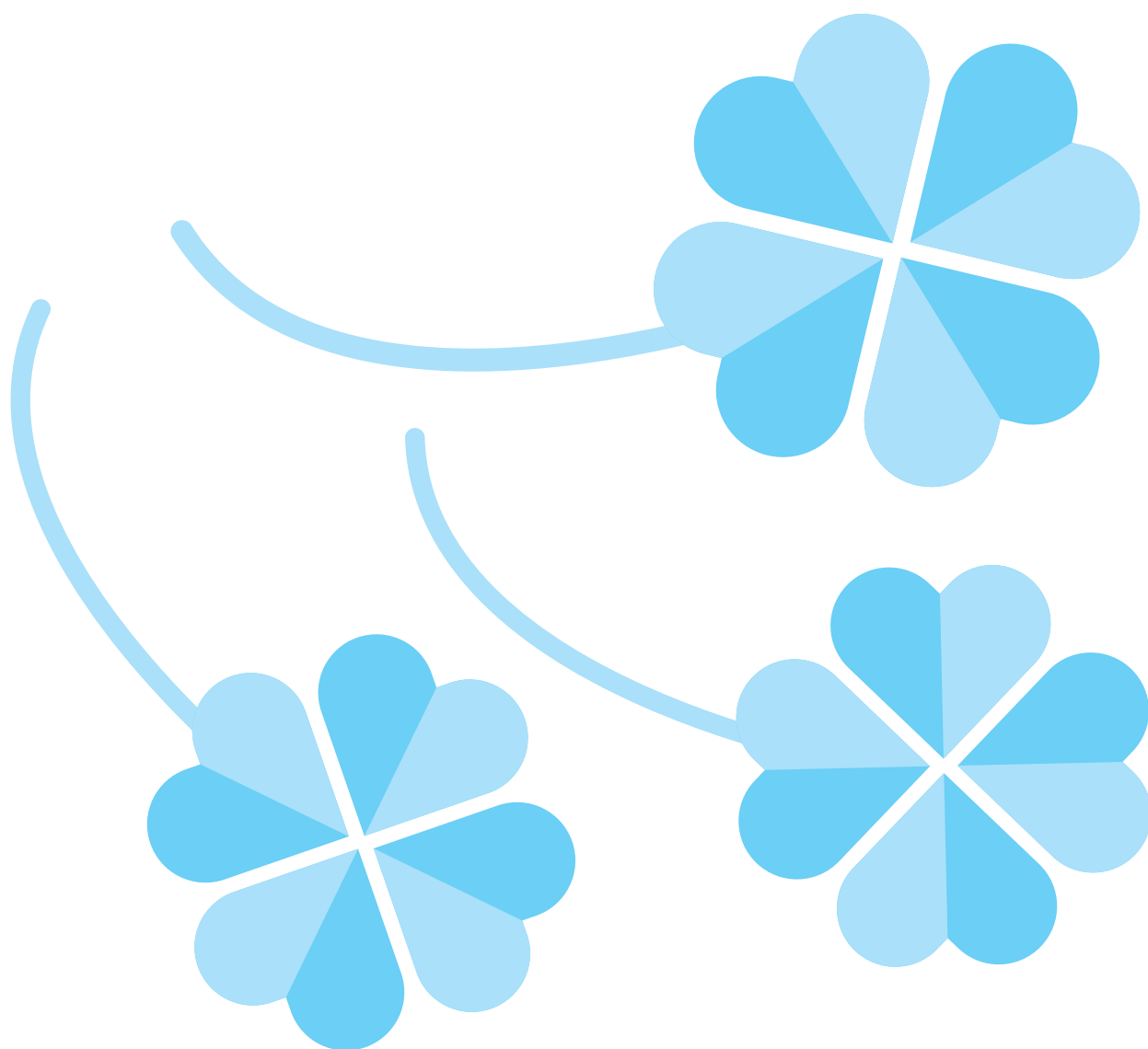


2026

保証人対象 大学との連絡会



東京都市大学

東京都市大学後援会

2026年度 大学概要	2
沿革	4
世田谷キャンパス キャンパスマップ	6
横浜キャンパス キャンパスマップ	7
キャンパスライフ	8
1. 大学行事と課外活動	8
2. 東京都市大学モバイルアプリ	8
3. 保証人用出席確認システム	8
4. 成年年齢引き下げ	9
5. アパートなどの住宅情報	9
6. 学生寮	9
7. クラス担任制度	10
8. 学生相談室	10
9. 医務室・健康診断	10
10. 保険制度	10
11. 奨学金制度	11
12. 教育ローン・学費ローン制度	13
13. キャンパス内外のマナー	13
学修の流れ	14
1. 単位制度	14
2. 卒業要件① 総単位数	14
3. 卒業要件② 科目区分	14
4. 卒業要件③ 科目の種類	14
5. 卒業要件④ 数理・データサイエンスプログラム	14
6. 履修計画	14
7. 履修登録単位数の上限	15
8. 成績評価と f-GPA	15
9. 4年間の標準的な学修の流れ	15
10. 学年進行途中の進級条件・卒業研究着手条件など	16
11. 修業年限と卒業延期	18
12. 2025年度学年末終了時の学科・学年別単位修得の状況	19
大学院進学	20
1. 本学の大学院概要	20
2. 入学金及び授業料	21
3. 入学試験	21
就職状況	22
1. 就職活動の時期について	23
2. 課題を知り、対策を立てる！	24
3. 全国屈指のサポート、ご活用ください！	26
4. 成功のカギ インターンシップ	26
5. Uターン就職について	27
6. 公務員就職について	27
7. 保育業界（保育園・幼稚園・施設等）への就職について	28
8. ご家庭でできる支援とポイント	28
東京都市大学後援会の活動	29
MEMO	31

「保証人対象 大学との連絡会」について

「保証人対象 大学との連絡会」は昭和42年より、大学と保証人の皆様との連携を図ることを目的として毎年開催しています。

昭和63年12月に武蔵工業大学後援会（現東京都市大学後援会）が発足し、平成元年から大学と後援会の共催で実施されて今年で60回目を迎え、全国13会場（大学会場含む）で開催されます。

この連絡会では、保証人の皆様に教職員が直接お会いして懇談し、学生生活の実情をご理解いただくとともに、皆様からのご意見・ご要望を伺い、大学運営に反映することを目指しています。

学生生活、修学状況、Uターンを含む就職関係、大学院進学状況などについて、教職員と直接お話しいただける貴重な機会です。情報交換を通じて東京都市大学についてより深く知っていただき、学生のキャンパスライフに触れていただく時間となれば幸いです。

東京都市大学

東京都市大学後援会



建学の精神	公正、自由、自治
理念	持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究
ビジョン	都市から夢を拓く——創立 100 年その先へ

東京都市大学	TOKYO CITY UNIVERSITY UNDERGRADUATE DIVISION	入学定員	収容定員
■理工学部	FACULTY OF SCIENCE AND ENGINEERING		
機械工学科	DEPARTMENT OF MECHANICAL ENGINEERING	120	480
機械システム工学科	DEPARTMENT OF MECHANICAL SYSTEMS ENGINEERING	110	440
電気電子通信工学科	DEPARTMENT OF ELECTRICAL, ELECTRONICS AND COMMUNICATION	150	600
医用工学科	DEPARTMENT OF MEDICAL ENGINEERING	60	240
応用化学科	DEPARTMENT OF APPLIED CHEMISTRY	75	300
原子力安全工学科	DEPARTMENT OF NUCLEAR SAFETY ENGINEERING	45	180
自然科学科	DEPARTMENT OF NATURAL SCIENCES	60	240
		620	2,480
■建築都市デザイン学部	FACULTY OF ARCHITECTURE AND URBAN DESIGN		
建築学科	DEPARTMENT OF ARCHITECTURE	120	480
都市工学科	DEPARTMENT OF URBAN AND CIVIL ENGINEERING	100	400
		220	880
■情報工学部	FACULTY OF INFORMATION TECHNOLOGY		
情報科学科	DEPARTMENT OF COMPUTER SCIENCE	100	400
知能情報工学科	DEPARTMENT OF INTELLIGENT SYSTEMS	80	320
		180	720
■環境学部	FACULTY OF ENVIRONMENTAL STUDIES		
環境創生学科	DEPARTMENT OF RESTORATION ECOLOGY AND BUILT ENVIRONMENT	90	360
環境経営システム学科	DEPARTMENT OF ENVIRONMENTAL MANAGEMENT AND SUSTAINABILITY	90	360
		180	720
■メディア情報学部	FACULTY OF INFORMATICS		
社会メディア学科	DEPARTMENT OF SOCIOLOGY AND MEDIA STUDIES	90	360
情報システム学科	DEPARTMENT OF INFORMATION SYSTEMS	100	400
		190	760
■デザイン・データ科学部	FACULTY OF DESIGN AND DATA SCIENCE		
デザイン・データ科学科	DEPARTMENT OF DESIGN AND DATA SCIENCE	100	400
■都市生活学部	FACULTY OF URBAN LIFE STUDIES		
都市生活学科	DEPARTMENT OF URBAN LIFE STUDIES	160	640
■人間科学部	FACULTY OF HUMAN LIFE SCIENCES		
人間科学科	DEPARTMENT OF HUMAN LIFE SCIENCES	100	400
		1,750	7,000

世田谷キャンパス	理工学部／建築都市デザイン学部／情報工学部／都市生活学部／人間科学部 総合理工学研究科／環境情報学研究科（都市生活学専攻） 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1－2 8－1
横浜キャンパス	環境学部／メディア情報学部／デザイン・データ科学部 環境情報学研究科（都市生活学専攻以外の専攻）／情報データ科学研究科 〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3－3－1
王禅寺キャンパス （理工学部 原子力研究所）	〒215-0013 神奈川県川崎市麻生区王禅寺 9 7 1
TCU Shibuya PXU 東京都市大学 渋谷パクス	〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1－1 0－7 五島育英会ビル 8 階

東京都市大学大学院	TOKYO CITY UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL	課程	博士前期課程 MASTER’S COURSE		博士後期課程 DOCTORAL COURSE	
		定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
■総合理工学研究科	GRADUATE SCHOOL OF INTEGRATIVE SCIENCE AND ENGINEERING					
機械専攻	MECHANICS		85	170	10	30
電気・化学専攻	ELECTRICAL ENGINEERING AND CHEMISTRY		110	220	12	36
共同原子力専攻	COOPERATIVE MAJOR IN NUCLEAR ENERGY		15	30	4	12
自然科学専攻	NATURAL SCIENCES		20	40	2	6
建築都市デザイン専攻	ARCHITECTURE AND URBAN DESIGN		90	180	12	36
情報専攻	INFORMATICS		80	160	10	30
			400	800	50	150
■環境情報学研究科	GRADUATE SCHOOL OF ENVIRONMENTAL AND INFORMATION STUDIES					
環境情報学専攻	ENVIRONMENTAL AND INFORMATION STUDIES		62	124	6	18
東京都市大学・エディスコワン大学 国際連携環境融合科学専攻	INTERNATIONAL COLLABORATIVE PROGRAM OF TRANSDISCIPLINARY SCIENCES FOR SUSTAINABILITY BETWEEN TOKYO CITY UNIVERSITY AND EDITH COWAN UNIVERSITY		5	10	－	－
都市生活学専攻	URBAN LIFE STUDIES		18	36	6	18
			85	170	12	36
■情報データ科学研究科	GRADUATE SCHOOL OF INFORMATION AND DATA SCIENCES					
情報データ科学専攻	INFORMATION AND DATA SCIENCES		20	40	5	10
			505	1,010	67	196

■関連組織・付属施設等

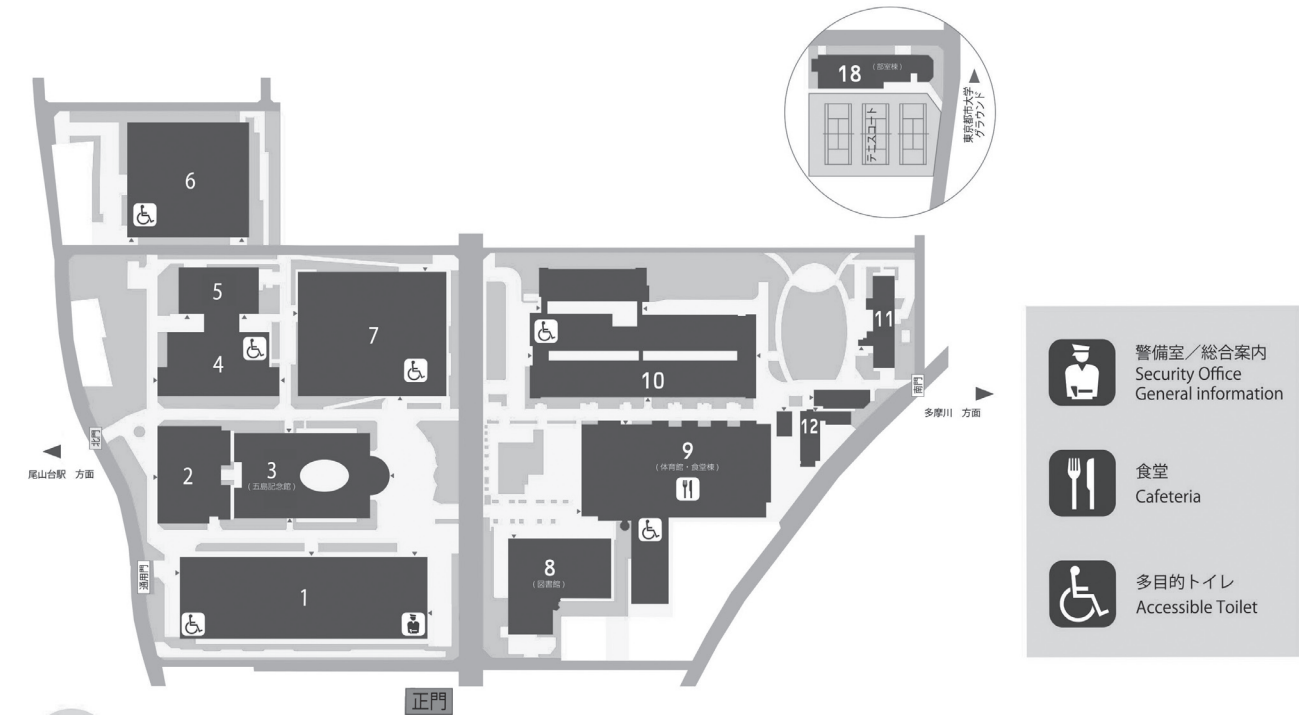
大学：共通教育部	FACULTY OF LIBERAL ARTS AND SCIENCES	大学学則 第 4 条の 4
大学：大学院	GRADUATE SCHOOL	大学学則 第 5 条
大学：図書館	LIBRARY	大学学則 第 6 条
大学：学生部		大学学則 第 7 条
大学：総合研究所	ADVANCED RESEARCH LABORATORIES	大学学則 第 8 条
大学：情報基盤センター	INFORMATION TECHNOLOGY CENTER	
理工学部：原子力研究所	ATOMIC ENERGY RESEARCH LABORATORY	大学学則 第 9 条
大学：付属学校		
(1) 付属高等学校	(5) 塩尻高等学校	
(2) 付属中学校	(6) 付属小学校	
(3) 等々力高等学校	(7) 二子幼稚園	
(4) 等々力中学校		

東京都市大学は、昭和4年に創設された武蔵高等工科学校をその母体として発展してきたもので、その沿革は次の通りである。昭和24年に学制改革により武蔵工業大学に昇格した本学は、公正・自由・自治を建学の精神とし、実学の充実に力点を置いた教育と、実践的かつ先駆的な研究活動で、わが国の工業教育に尽瘁してきた。平成21年には東京都市大学と改称し、「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を理念とした、科学技術から生活福祉までの幅広い領域を網羅する大学として現在に至っている。

昭和4年9月	□武蔵高等工科学校として創設 □電気工学科，土木工学科，建築工学科の3学科を開設
昭和5年4月	□建築工学科を建築学科と改称
昭和9年4月	□機械工学科を増設，計4学科となる
昭和17年4月	□実業学校令，専門学校令による武蔵高等工業学校を開設 □機械工学科，電気工学科，土木工学科，建築工学科の4学科を設置
昭和19年4月	□武蔵工業専門学校と改称 □機械科，電気科，建築科，土木科とし，同時に電気通信科を増設，計5科となる
昭和24年4月	□武蔵工業大学に昇格 □工学部機械工学科，電気工学科，建設工学科の3学科を設置 □学長に赤野正信が就任
昭和25年4月	□短期大学部機械科，電気科，建設科の3科を併設
昭和27年4月	□学長に荒川大太郎が就任
昭和29年11月	□理事長に五島慶太が就任
昭和30年5月	□学長に元東京工業大学長・大阪帝国大学総長工学博士八木秀次が就任
同6月	□学校法人東横学園を合併して学校法人名を五島育英会と改称
昭和32年4月	□工学部に電気通信工学科を増設，建設工学科を建築工学科，土木工学科に分離し，工学部は計5学科となる
昭和34年4月	□工学部に生産機械工学科，経営工学科を増設，工学部は計7学科となる
同9月	□理事長に五島昇が就任
昭和35年4月	□原子力研究所発足 □学長に前静岡大学長工学博士山田良之助が就任
同10月	□工学部建築工学科を建築学科と改称
昭和39年9月	□五島育英会々長に五島昇が就任 □理事長に唐沢俊樹が就任
昭和40年4月	□工学部機械工学科と生産機械工学科を合併，新たに機械工学科とし，工学部は計6学科となる
昭和41年4月	□大学院工学研究科修士課程機械工学専攻，生産機械工学専攻，電気工学専攻，建築学専攻の4専攻を開設
昭和42年5月	□理事長に星野直樹が就任
昭和43年3月	□短期大学部を廃止
同4月	□大学院工学研究科修士後期課程機械工学専攻，生産機械工学専攻，電気工学専攻，建築学専攻の4専攻を開設
昭和44年4月	□工学部電気通信工学科を電子通信工学科と改称
昭和47年4月	□大学院工学研究科修士課程に土木工学専攻を増設，大学院工学研究科修士課程は計5専攻となる
昭和49年3月	□理事長に曾禰益が就任
昭和53年3月	□学長に東京大学名誉教授工学博士石川馨が就任
昭和54年10月	□創立50周年 □情報処理センター発足
昭和55年6月	□理事長に五島昇が就任
昭和56年4月	□大学院工学研究科修士後期課程に土木工学専攻を増設，大学院工学研究科修士後期課程は計5専攻となる □大学院工学研究科修士課程に経営工学専攻，原子力工学専攻を増設，大学院工学研究科修士課程は計7専攻となる
同6月	□会長に五島昇が就任 □理事長に山田秀介が就任
昭和60年4月	□工学部電気工学科を電気電子工学科と改称
平成元年9月	□学長に本学教授工学博士古浜庄一が就任
平成4年4月	□水素エネルギー研究センター発足
平成6年5月	□理事長に堀江音太郎が就任
平成9年4月	□環境情報学部環境情報学科を開設，大学は計2学部となる □工学部に機械システム工学科，電子情報工学科，エネルギー基礎工学科を増設，工学部は計9学科となる □情報メディアセンター発足
平成10年9月	□学長に東京大学名誉教授・埼玉大学名誉教授工学博士堀川清司が就任
同10月	□環境情報学部が国際規格「環境マネジメントシステムISO 14001」の認証を取得
平成11年4月	□エネルギー環境技術開発センター発足
平成12年4月	□産官学交流センター発足
同5月	□理事長に秋山壽が就任
平成13年4月	□大学院環境情報学研究科修士課程環境情報学専攻を開設，大学院は計2研究科となる □大学院工学研究科修士課程及び博士後期課程生産機械工学専攻を機械システム工学専攻と改称
平成14年4月	□大学院工学研究科修士課程及び博士後期課程土木工学専攻を都市基盤工学専攻と改称，大学院工学研究科修士課程原子力工学専攻をエネルギー量子工学専攻と改称 □工学部土木工学科を都市基盤工学科，経営工学科をシステム情報工学科とそれぞれ改称 □環境情報学部に情報メディア学科を増設，環境情報学部は計2学科となる □生涯学習センター発足
平成15年3月	□14号館（サクラセンター・＃14（新体育館・食堂））完成
平成15年4月	□大学院工学研究科修士後期課程にエネルギー量子工学専攻を増設，大学院工学研究科修士後期課程は計6専攻となる □工学部電気電子工学科を電気電子情報工学科，電子情報工学科をコンピュータ・メディア工学科，エネルギー基礎工学科を環境エネルギー工学科とそれぞれ改称

同5月	□理事長に山口裕啓が就任
平成16年4月	□総合研究所発足
同9月	□学長に本学教授工学博士中村英夫が就任
同10月	□創立75周年 □9号館（新図書館）完成
平成17年4月	□大学院環境情報学研究科修士後期課程環境情報学専攻を開設
平成18年4月	□大学院工学研究科修士課程経営工学専攻の学生募集を停止，修士課程及び博士後期課程にシステム情報工学専攻を開設 □大学院全専攻に博士後期課程が設置されたため修士課程の呼称を博士前期課程に変更，大学院博士後期課程及び博士前期課程は計2研究科・8専攻となる
同8月	□4号館（新建築学科棟）完成
平成19年4月	□知識工学部情報科学科，情報ネットワーク工学科，応用情報工学科の3学科を開設，大学は計3学部となる □工学部に生体医工学科を増設，工学部の電子通信工学科，コンピュータ・メディア工学科，システム情報工学科の学生募集を停止，電気電子情報工学科を電気電子工学科，都市基盤工学科を都市工学科とそれぞれ改称，工学部は計7学科となる
同12月	□室蘭工業大学と包括連携協定を締結
平成20年3月	□昭和大学，多摩美術大学と包括連携協定を締結
同4月	□工学部に原子力安全工学科を増設，工学部は計8学科となる □工学部環境エネルギー工学科をエネルギー化学科と改称
平成21年4月	□同一法人内の東横学園女子短期大学と統合し，大学名称を東京都市大学と改称 □都市生活学部都市生活学科，人間科学部児童学科を開設，大学は計5学部となる □大学院工学研究科修士後期課程及び博士前期課程電気工学専攻の学生募集を停止，電気電子工学専攻，生体医工学専攻，情報工学専攻を開設，大学院工学研究科修士後期課程及び博士前期課程は計9専攻となる □知識工学部に自然科学科を増設，応用情報工学科を経営システム工学科と改称，知識工学部は計4学科となる
同6月	□2号館（生体医工学科棟）完成
平成22年4月	□大学院工学研究科修士後期課程及び博士前期課程エネルギー量子工学専攻の学生募集を停止，エネルギー化学専攻を開設，共同原子力専攻を早稲田大学と共同で開設，大学院工学研究科修士後期課程及び博士前期課程は計10専攻となる
平成23年4月	□大学院工学研究科修士後期課程及び博士前期課程都市基盤工学専攻を都市工学専攻と改称 □工学部及び知識工学部の情報処理センター，環境情報学部の情報メディアセンターを改編し，情報基盤センター発足
平成23年5月	□理事長に安達功が就任
平成24年4月	□共通教育部を設置
平成25年4月	□大学院環境情報学研究科に修士課程都市生活学専攻を増設，大学院博士前期課程の呼称を修士課程に変更 □環境情報学部環境情報学科及び情報メディア学科の学生募集停止，環境学部環境創生学科，環境マネジメント学科，メディア情報学部社会メディア学科，情報システム学科を新設，大学は計6学部18学科となる □工学部生体医工学科を医用工学科と改称，知識工学部情報ネットワーク工学科を情報通信工学科と改称
同9月	□学長に東京大学名誉教授・前独立行政法人科学技術振興機構理事長 理工学博士 北澤宏一が就任
平成26年1月	□1号館完成
平成27年1月	□学長に本学副学長工学博士三木千壽が就任
平成30年4月	□大学院工学研究科を総合理工学研究科と改称，博士後期課程及び修士課程機械工学専攻を機械専攻に改称，電気電子工学専攻を電気・化学専攻に改称，建築学専攻を建築・都市専攻に改称，情報工学専攻を情報専攻に改称，機械システム工学専攻，生体医工学専攻，都市工学専攻，システム情報工学専攻，エネルギー化学専攻の学生募集を停止，総合理工学研究科は計5専攻となる □6号館（研究実験棟）完成
同5月	□理事長に高橋遠が就任
平成31年4月	□工学部電気電子工学科を電気電子通信工学科と改称，知識工学部経営システム工学科を知能情報工学科と改称，環境学部環境マネジメント学科を環境経営システム学科と改称，知識工学部情報通信工学科の学生募集停止，大学は計6学部17学科となる □国際学生寮完成
令和元年10月	□創立90周年
令和2年4月	□工学部を理工学部と改称，工学部建築学科及び都市工学科の学生募集停止，理工学部に自然科学科を増設，理工学部は計7学科となる □知識工学部を情報工学部と改称，知識工学部自然科学科の学生募集停止，情報工学部は計2学科となる □建築都市デザイン学部建築学科，都市工学科の2学科を開設，大学は計7学部17学科となる □大学院総合理工学研究科修士後期課程及び修士課程自然科学専攻を増設，大学院総合理工学研究科修士後期課程及び修士課程は計6専攻となる
令和3年4月	□大学院環境情報学研究科に博士後期課程都市生活学専攻を開設，大学院修士課程の呼称を博士前期課程に変更，大学院博士後期課程及び博士前期課程は計2研究科・8専攻となる □理工学部エネルギー化学科を応用化学科と改称
同5月	□理事長に泉康幸が就任
令和4年1月	□7号館完成
令和5年4月	□人間科学部児童学科を人間科学科と改称，デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科を開設，大学は8学部18学科となる
令和6年1月	□学長に本学教授工学博士野城智也が就任
同4月	□総合理工学研究科建築・都市専攻を建築都市デザイン専攻と改称 □大学院環境情報学研究科に東京都市大学・エディスコーワン大学国際連携環境融合科学専攻 博士前期課程を開設，環境情報学研究科は計3専攻となる
同5月	□理事長に渡邊功が就任
同8月	□10号館完成
令和7年4月	□TCU Shibuya PXU（東京都市大学 渋谷パクス）開設
同9月	□大学院情報データ科学研究科博士前期課程及び博士後期課程情報データ科学専攻を開設，大学院は計3研究科となる
令和8年3月	□横浜キャンパス7号館完成

世田谷キャンパス キャンパスマップ



(校地面積：75,296.31 m²、校舎面積：79,763.68 m²)

●1号館

事務室、健康管理センター（医務室・学生相談室）、ダイバーシティ推進室、研究室、一般教室、ラウンジ

●2号館

ナノ科学技術学際研究センター、一般教室、研究室、実験室

●3号館（五島記念館）

実験室、研究室、一般教室、五島メモリアルホール、歴史展示コーナー、サテライトオフィス

●4号館（建築学科棟）

研究室、製図室

●5号館

実験室、研究室、小講堂、子育て支援センター「ぴっぴ」

●6号館

総合研究所、一般教室、実験室、研究室

●7号館

TCUホール、Taki Global Floor、カフェ（nana cafe）・売店、研究室、セミナー室、一般教室、ピアノ室、音楽室、造形室、保健・調理実習室、実習指導室、プロジェクトスタジオ、都市フォーラム

●8号館

図書館、ラーニング・コモンズ、情報基盤センターSC

●9号館（SAKURA CENTER）

体育館・食堂棟【CANTEEN-RARA】〈アリーナ・食堂・カフェテラス（Sky Cafeteria）〉、学生クラブ本部室・ホール・シャワー室・集会室・講義室

●10号館

実験室・研究室、クリエイティブセンター、創成工房、クリーンルーム、「ひらめき・こと」スタジアム、PBL教室、事務室

●11号館・11号館B棟

実験室、研究室、ものづくり支援センター

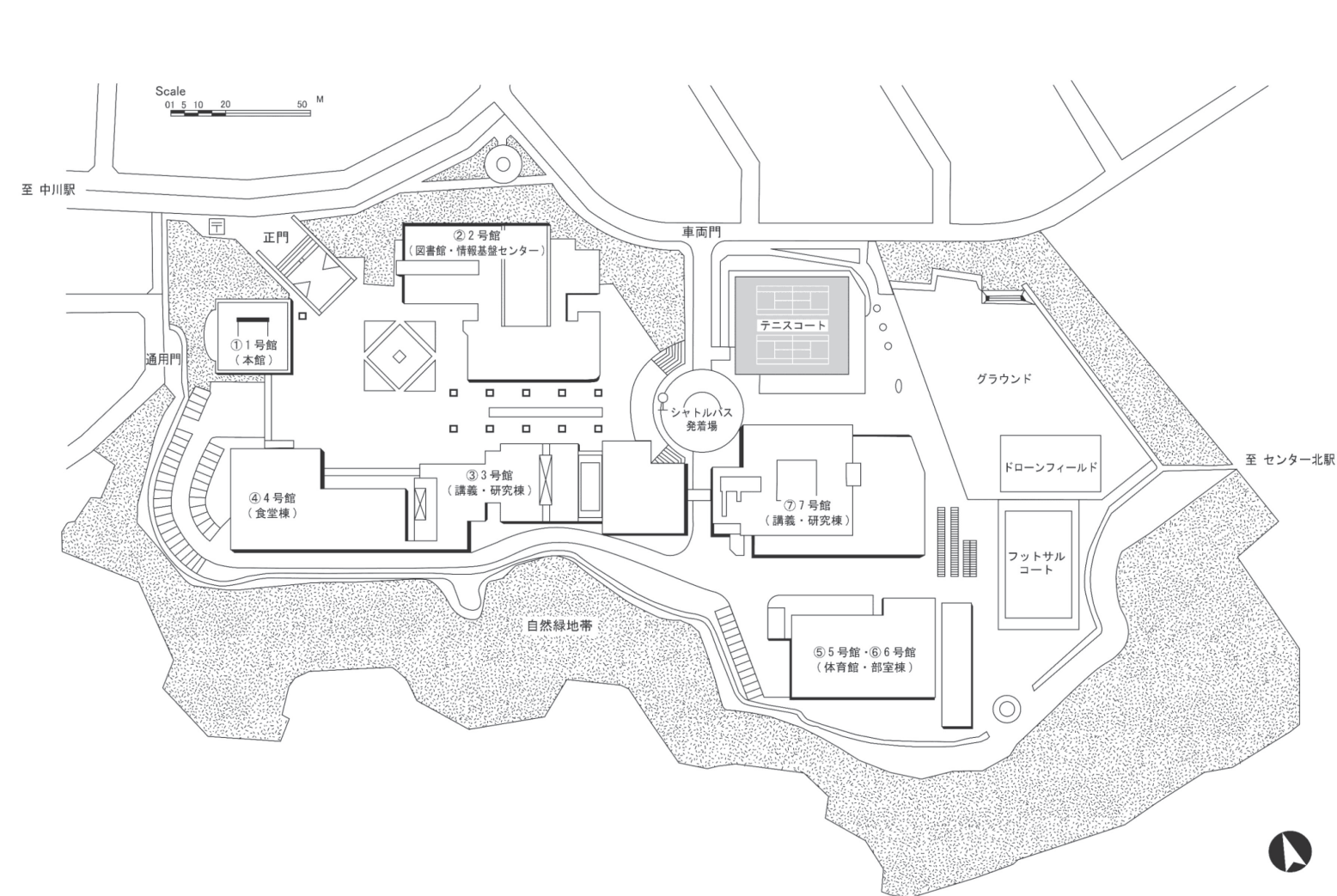
●12号館・12号館（A・B・C棟）

実験室、研究室

●18号館（クラブハウス）

体育準備室、学生クラブ部室、会議室、ミーティングルーム、シャワールーム

横浜キャンパス キャンパスマップ



(校地面積：64,687.96 m²、校舎面積：21,403.71 m²)

●1号館（本館）

事務室、医務室、学生相談室

●2号館（図書館・情報基盤センター）

一般教室、メディアホール、情報処理演習室、図書館、GLOBAL COMMONS、22G プレゼンテーションラボ

●3号館

一般教室、情報処理演習室、FEIS ホール、フィールド演習室、31E 環境実験・演習室、31A 教室、学科事務室、講師控室

●4号館（食堂棟）

学生食堂、学生ホール、キャンパスショップ

●5号館

体育館、アリーナ、トレーニングルーム、学生団体部室

●6号館

部室棟

●7号館

一般教室、ホール、カフェ、ファブ工房

1. 大学行事と課外活動

東京都市大学には、年間を通して全学的な行事がたくさんあります。

入学式にはじまり、音楽フェスティバル、体育祭、東京都市大学横浜祭、東京都市大学世田谷祭、YC チャリティーフエス、学位授与式など、大学生活の一生の思い出になっています。また、課外活動では、学生が自らの意志により各団体に加入し、同じ興味を持つ者同士が協力しあい、自主的に運営を行っています。

2. 東京都市大学モバイルアプリ

東京都市大学では、モバイルアプリ（公式）を配信しております。学生生活の必須情報を手軽に確認できるアプリです。学生は、TCU アカウントと PW を使用してログインし使用しますが、下記◎は、学生以外でもゲストユーザにて閲覧できます。

■学内各種システムのリンクと自動ログイン（個人認証）→ 出席確認システム・TCU メール

■学生生活情報（キャンパスライフ）→ 証明書発行・学内施設・学内マナー・医務室/近隣医療機関など

■履修時間割情報の表示（履修確認期間翌日から表示開始）

■休講/補講情報/教室変更の確認

■大学からのお知らせプッシュ通知 … 他コンテンツ多数、新機能も順次実装

◎学生生活情報（キャンパスライフ）、学生食堂の週間メニュー、

シャトルバス時刻表



3. 保証人用出席確認システム

東京都市大学は、学生の授業への出席状況を保証人各位へ公開する「保証人用出席確認システム」を運用しております。保証人各位におかれましては、授業への出席状況を学生と共有することにつきまして、学生本人と話し合いいただき、ご利用ください。なお、本システムの運用は、学生にも周知しております。

（1）使用に当たっての注意事項

本システムは、下記（4）「出席情報について」に記載の理由から「学生の出席状況の ” 傾向 ” を把握いただく」システムであることをご了承ください。

（2）授業出席状況の保証人公開対象学年

■1 年生および 2 年生

■3 年生に進級した学生は、自動的に本システムの対象外となり、本システムは利用できなくなります。

（3）ログインできない場合

■学生が公開停止申請した場合、本システムは利用できません。

■停止申請時に学生が登録した保証人メールアドレス宛てに公開停止通知メールが届きます。

■公開の再開手続き等の詳細は、下記（5）「その他」に記載の URL より「保証人用出席確認システム」ご案内ページをご確認ください。

（4）出席情報について

■成績はあくまで学修結果で評価されます。

■出席情報の本システムへの反映には、タイムラグがあります。授業当日中に反映はされません。

■全ての授業で出欠をとるわけではありません。

■出欠をとる授業でも、毎回に行わないことがあります。

■集中講義、実習、演習では、出欠を取らない場合があります。

■実験などの 2 時限連続で実施する授業では、最初の時限でしか出欠を取らないこともあります。

■授業当日の小テスト等の提出を以って出席とみなす授業の場合、授業日より遅れてシステムに反映されます。

■履修科目を出席確認システムに反映するため、出席状況をご確認いただけるのは、前期は 5 月上旬以降、後期は 10 月中旬以降となります。

（5）その他

本システムの操作方法等の詳細は、「保証人用出席確認システム」案内ページをご確認ください。

<https://www.itc.tcu.ac.jp/service/attend/>



4. 成年年齢引き下げ

民法の改正により 2022（令和 4）年 4 月 1 日から、成年年齢が 18 歳に引き下げられました。

（1）新成人となる日

■生年月日が 2004 年 4 月 2 日以降→18 歳の誕生日

（2）18 歳成人で変わる事・変わらないこと

変わる事

■契約・・・保護者の同意なくひとりで契約できます。※（クレジット、ローン、賃貸契約など）

※未成年者が保護者等の同意を得ずに結んだ契約の取り消し（未成年者取消権）を行使することができなくなりました。

■婚姻年齢・・・結婚できる年齢が性別に関わらず 18 歳になりました。

■性別変更・・・戸籍上の性別を変更できる年齢が 18 歳になりました。

■裁判員制度・・・裁判員に選ばれる年齢が 18 歳になりました。

■パスポート・・・10 年パスポートが申請できます。

■国家資格取得・・・国家資格取得が出来るようになりました。

変わらないこと

■年金保険料・・・納付は 20 歳からです。学生納付特例制度を利用するには手続きが必要です。

■飲酒・喫煙・ギャンブル・・・20 歳からです。

5. アパートなどの住宅情報

住まい探しを希望する学生のために、本学生情報センターと提携し学生住まい検索システムを用意しています。下宿、アパート、マンションをはじめ学生の住まい探しについては、以下をご利用ください。

【学生住まい検索システム】<https://s.749.jp/tcu/>

HP 運営・提携：株式会社学生情報センター（首都圏リーシングセンター 渋谷エリア） TEL：0120-749-170

6. 学生寮

東京都市大学には「東京都市大学指定学生寮」に加え、専用寮となる「東京都市大学国際学生寮」があります。いずれも寮監が常駐しており、寮費も安価な上、家具・備品類も備え付けられているので、引越しにかかる手間や経済的負担も軽減でき、不安なく生活をスタートできます。充実した学生生活を送るために、安心・安全で快適な学生寮を大いに活用してください。

■東京都市大学国際学生寮（専用寮）

外国人留学生と日本人学生との共同生活の中で、異文化を理解する力を養いながら、グローバルに活躍できる人材の育成を目的とした「東京都市大学国際学生寮」が 2019 年 4 月に開寮しました。世田谷キャンパスまでは徒歩 3 分。近隣にはコンビニエンスストア・スーパーマーケットなども充実。閑静で治安もよく、多摩川が近くに流れる自然も豊かな立地で、勉強に集中できる環境が整っています。寮監の常駐管理に加え、寮入口及び各フロア・各居室でのカードキーによる認証チェックも導入しており、セキュリティも万全。遠方にお住まいのご家族にも安心していただける寮です。

また、専用寮では RA（レジデント・アシスタント）制度を採用し、寮生同士の活発な交流が図られています。日本全国・世界各地から集まった、多様な価値観を持つ学生たちと相互理解を深め、幅広い人間関係を形成し、寮生同士のふれあいの中で協調性を学ぶことで大きな成長の見られる有益な場所となっています。

■東京都市大学指定学生寮

本学が提携している株式会社共立メンテナンスが運営する寮で、他大学の学生も混在する指定学生寮です。親元を離れて学ぶ学生が、家庭的な雰囲気の中で落ち着いて勉強できるよう、設備・環境・経済性・交通の便などの配慮が施された施設で、本学でも多くの学生が利用しています。管理面においては寮監夫妻が常駐し万全を期しておりますので、ご家族の方々にも安心していただけます。寮内厨房で朝夕 2 食調理、提供されており、健康面のサポートがあるのも大きな魅力です。

■問合せ先

株式会社共立メンテナンス 学生寮事務局（専用寮、指定学生寮とも問合せ受付）

TEL：0120-88-1030

案内ページ URL：<https://dormy-ac.com/page/t-toshi/>

→



■日本学生支援機構奨学金（JASSO ・ 旧日本育英会奨学金）

この奨学金は、優秀でありながら、経済的理由により著しく修学困難な学生に貸与するものです。募集にあたり説明会を実施しますので申請を希望する学生は必ず参加してください。説明会の日程（４月、９月実施）についてはポータルサイト等で周知しますので確認してください。

区分	採用の種類	学 年	学力基準	採用期間	貸与月額
第一種奨学金 （無利息）	定期採用	１年次	高校時評定平均値 3.5以上の者	最短修業年限	■自宅通学 20,000 円、30,000 円、40,000 円 または 54,000 円（＊）の中から希望する 月額を選択
		２年次以上	学科内での席次が上位 1／3以内		
	緊急採用	全学年	平均水準以上	採用年度末	■自宅外通学者 20,000 円、30,000 円、40,000 円、 50,000 円または 64,000 円（＊）の 中から希望する月額を選択
第二種奨学金 （利息付）	定期採用	全学年	平均水準以上 最短修業年限で卒業 が見込める者	最短修業年限	20,000 円～120,000 円（10,000 円刻み） の中から希望する月額を選択
	応急採用				

（＊）最高月額の貸与には家計基準があります。

日本学生支援機構貸与奨学金の利用者が、卒業後に返還をする際、地方公共団体（※）、企業の奨学金返還支援（代理返還）制度などを利用できる場合があります。制度等の情報については、地方公共団体の HP、日本学生支援機構 HP を参照の上、利用できる制度は是非とも活用するよう、卒業前より情報収集を行ってください。

（※）参考 URL：<https://www.chisou.go.jp/sousei/about/shougakukin/>

■地方自治体・民間育英団体による奨学金

地方自治体及び各種民間育英団体等の奨学金は、その大半が独自の基準により募集しています。これらの奨学金は当該年度初旬の募集が通常ですので、余裕を持って調べる事をお勧めします。なお、以下はこれまで大学に募集依頼のあった機関の奨学金となります。これら募集依頼のあったものは順次ポータルサイト、掲示板で紹介・募集しています。

	機 関 名
地方自治体	東京都、神奈川県、茨城県、千葉県、福島県、長野県、 等
奨学財団等（給費）	（公財）オリエンタルモーター奨学財団、（公財）オーディオテクニカ奨学会、（公財）日揮・実吉奨学会、（公財）鹿島育英会、（一財）上田記念財団、（一財）村上奨学財団 、（公財）高村育英会、（公財）小林育英会、 （一財）福岡育英会、（公財）小田急財団、（一財）守谷育英会 等

■保証人様への奨学制度利用に関するお願い

本学では、奨学金利用にあたって、特に日本学生支援機構および修学支援新制度に関する対応は、学生自身にて行うよう指導しております。日本学生支援機構の奨学生のしおりには、奨学生の心構えとして、「奨学生として自覚と責任を持って勉学に励んでください」という一文があり、いかなる理由で奨学金を申し込まれたとしても、学生本人に奨学生という自覚と責任がなければ奨学金に対する向き合い方が疎かになってしまいます。よって、保証人様におかれては、奨学金に係る各種手続き、照会等は学生自身にて行うようご指導ください。保証人様におかれては、後方支援となつていただきますようご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

12. 教育ローン・学費ローン制度

学費に関する費用を国や民間の金融機関が「ローン制度」により融資（返済義務有り）するものです。融資の条件や、上限金額、金利等の詳細が取り扱う機関によって異なります（また審査があり、希望をしても必ずしも融資が可能にならない場合がありますので、ご注意ください）。奨学金制度とあわせて上手に活用し経済支援手段のひとつとして、ご利用ください。

	概 要
国の教育ローン	日本政策金融公庫が行っている融資制度。銀行などのローン制度よりも低利率。
銀行による 「教育ローン」	無担保での融資が可能であり、年収の上限が無いことや、国の教育ローンよりも融資の上限額が高額であるなどの特徴があるが、上述のローンに比較して金利が高いところが難点。
労働金庫、信用金庫、 信用組合、農協等によ る教育ローン	各金庫、組合に加入している組合員以外でも利用可能。地区及び店舗により詳細が異なるが、銀行のローンよりも融資額が高額であるものや返済期間が長いものもある。
信販会社による 「学費ローン」	本学では「楽天銀行」、「オリエントコーポレーション（オリコ）」、「ジャックス」と特別に提携しています。一般に公開している制度よりも金利が優遇された学費ローン制度をご用意しております。詳細は信販会社へ直接お問い合わせください。 「楽天銀行」 TEL：0120-61-6910 「オリエントコーポレーション」 TEL：0120-517-325 「ジャックス」 TEL：0120-338-817

13. キャンパス内外のマナー

■自動車通学の禁止・オートバイ通学の自粛

本学では、通学時の安全確保、学内秩序の維持、駐車場の確保が困難なこと及び大学周辺は全て法令による駐車禁止区域に指定されていることから、自動車による通学は禁止としています。しかしながら、近隣店舗への迷惑駐車などトラブルが多発しております。自動車での通学及び、このことによる迷惑駐車が発見された場合には、学内掲示板での公示を含めて、本人及び保証人連署で、謝罪・損害の賠償をしてもらいます。さらに違反を繰り返す場合には、停学・退学等を含めた処罰を行います（オートバイによる迷惑駐車についても、状況に応じてこれに準じます）。また、オートバイによる通学は自粛としています。安全面からの配慮はもちろん、排気音による騒音等に関する苦情は、地域との共生をめざす本学としては、大変苦慮しているところです。やむを得ずオートバイに乗ってきた場合は、すみやかにエンジンを切り、指定された場所に駐輪する、エンジンを吹かさないなどの配慮をお願いしています。

■オートバイ・自転車撤去・処分

オートバイ・自転車は、指定された駐輪場に置くことになっていますが、指定駐輪場以外での駐輪は通行の妨げとなり危険です。こうした違反駐輪車両については、理由に関わらず監視員により強制的に移動・撤去する場合があります。なお、長期に渡って放置されたオートバイ・自転車については、所有権を完全に放棄したこととし、大学で廃棄処分します。対象となった車両は学外に搬出され処分されますので、返却等は一切できません。また、事後大学として一切責任は負いません。

■喫煙マナー

各キャンパスとも指定場所以外の喫煙は禁止していますが、社会的な動向も考慮し、全面的な禁煙も視野にいれて検討を進めています。タバコを吸う人も吸わない人も快適に過ごせるキャンパスを実現するために一人ひとりの心がけが求められています。また、世田谷区では歩きたばこ禁止条例が施行されています。通学途中の歩きたばこはもちろん、近隣の路上喫煙は厳禁です。

1. 単位制度

本学の教育課程は「単位制度」に基づいて編成されており、「単位」は、履修した科目の学力が一定レベルに達したと認められた場合に与えられます。

授業科目は、クォーターごと（前学期・後学期をさらに分割した期間）または前期・後期の半期ごとに開講（一部通年開講科目もあり）されますが、各科目の単位数は科目の授業方法（講義、演習、実験、実習、実技等）にともなう予習や復習などの「自学自習」の必要時間数を踏まえ、計算されます。半期週 1 コマの授業について、一般的な講義科目では 2 単位が与えられます。実験、実習、実技などは 1 単位となります。

2. 卒業要件① 総単位数

本学を卒業するためには、本学が定める修業年限（4 年）を満たし、総計で 124 単位以上を修得しなければなりません。

3. 卒業要件② 科目区分

授業科目は、その内容により「教養科目」「外国語科目」「体育科目」「専門基礎科目」「専門科目」「専門応用科目」などの科目区分に体系化され、それら区分ごとにも卒業要件単位数が定められています。卒業要件単位数は学部・学科・入学年度・所属コースによって異なりますので、入学年度の「学修要覧」等で十分に確認してください。

4. 卒業要件③ 科目の種類

授業科目は、必修科目（卒業のために必ず履修しなければならない科目）のほか、各自の学修目標にあわせて選択する選択必修科目（一定範囲の科目グループの中から指定単位数分を選択して履修しなければならない科目）、選択科目などがあります。

総単位数要件や科目区分要件をクリアしていても、必修科目が 1 科目不足ただけで卒業延期となります。卒業要件は学部・学科・入学年度・所属コースによって異なりますので、入学年度の「学修要覧」等で十分に確認してください。

5. 卒業要件④ 数理・データサイエンスプログラム※

社会からの要請に応え、数理的思考力とデータ分析・活用能力の修得を目的に、卒業要件として「数理・データサイエンスプログラム」の充足を定めました。「数理・データサイエンスプログラム」は、数理科学分野とデータサイエンス分野の科目群で構成され、数理科学分野とデータサイエンス分野を各 1 単位以上含み、合計で 4 単位以上の修得を要します。これを満たさないと卒業延期となります。

※ 数理・データサイエンスプログラムは、2021 年度以降 全学部入学生が対象です（環境学部、メディア情報学部、都市生活学部及び人間科学部は 2020 年度入学生から対象）。

6. 履修計画

各学期の履修登録に当たっては、「学修要覧」に記載された卒業要件や履修要綱等を十分に理解するとともに、クラス担任教員等のアドバイスを得るなどして効果的な履修計画を作成してください。

履修計画に関して留意すべきこととしては以下の事項があげられます。

○各学年・学期はじめに当たっては、「教授要目（シラバス）」を熟読するとともに、その年度の教育課程を十分研究した上で履修方針を定めること。

○自学自習に多くの時間を要する単位制度のもとでは、履修科目の適正数を考慮して計画すること。

○所属学年に組まれている授業科目は、次年度において再履修することになると、効果的な時間割を編成しにくくなるので、原則としてその学年で修得すること。

7. 履修登録単位数の上限

入学年度・学部によって半期あたりの履修登録単位数の上限が定められています。

通年の科目は、単位数に 1/2 を乗じた値を半期分の単位数とします。

入学年度によっては上限緩和や特別に超過履修を認める場合などもありますので、詳細は入学年度の「学修要覧」等で十分に確認してください。

8. 成績評価と f-GPA

授業科目は、成績評価として、「秀（100 点～90 点）」「優（89 点～80 点）」「良（79 点～70 点）」「可（69 点～60 点）」「不可（59 点以下）」の 5 段階で評価されます。「秀」「優」「良」「可」は合格（単位を認定）、「不可」は不合格（単位が認められず、必修科目などの場合は翌年に再履修）となります。

※ 採点不可能な場合等（授業に出席していない、定期試験を受験していない、判断する材料がない場合）は、横浜キャンパス開講科目のみ「欠席」評価となることがあります。

※ 当初の評価で合格に達していない場合でも、授業への出席状況や授業内容の理解度などから追加の学習によって合格に達すると期待される学生には追加学修の機会を設けて再評価を行うことがあります。

成績評価は、f-GPA（ファンクショナル・グレード・ポイント・アベレージ）方式により、成績順位の算定にも利用されます。計算式は以下の通りで、算出された評定値の大きい順に各学科・学年ごとに順位がつけられます。

$$\frac{\text{（履修した各科目の GP} \times \text{単位数）の合計}}{\text{履修単位数}} = \text{評定値}$$

※ GP（2018～2019 年度入学生）＝（科目の得点－55）÷10（科目の得点が 60 点未満の場合は 0）

※ GP（2020 年度以降入学生）＝（科目の得点－50）÷10（科目の得点が 60 点未満の場合は 0）

学部・学科・入学年度によって、上記算定式の詳細規程（不合格科目を再履修した場合に最新評価結果に替えて算出するか否か…など）が異なる場合があります。詳細は入学年度の「学修要覧」で確認してください。

※ 保証人ポータルにおける成績公開について
2025 年度後期より、保証人ポータルにおける成績公開の運用を開始いたしました。保証人ポータルでは、成績公開期間中、インターネット上で学生の【 履修科目名、成績評価、修得単位数、GPA、席次 】をご覧いただくことが可能です。これに伴い、従来 8 月下旬・3 月下旬に郵送しておりました成績通知書は、2026 年度から廃止し、保証人ポータルにおける照会に移行しております。詳細は本学ホームページ「保証人ポータルにおける成績公開の運用開始について」をご参照ください。

9. 4 年間の標準的な学修の流れ

学修計画には、卒業までの 4 年間に渡る長期的な視野が必要です。下表にはその目安として、卒業までの修得目標単位数をあげました。4 年間の学修計画の指標として参考にしてください。

学年	概要	年度末修得目標単位数
1 年次	主に必修科目の修得と、専門科目の基礎分野となる科目の修得をめざす。	40 単位以上
2 年次		80 単位以上
3 年次	卒業研究の着手条件（100 単位以上＋各学部・学科の定める条件）を充たせるよう努力する。	108～120 単位
4 年次	卒業研究に着手し、卒業研究論文を作成する。	124 単位

4 年次になると、各研究室に所属して、論文・文献調査・設計・実験等の「卒業研究/卒業研究(1), (2)（通年で 6 単位）」（デザイン・データ科学部では、研究室に所属することなく、4 年次後期から「キャップストーンプロジェクト」）に着手します。大学における学修の集大成になります。

10. 学年進行途中の進級条件・卒業研究着手条件など

2 年次以降の学年末には、進級や「事例研究」、「卒業研究」等に着手するための条件が定められています。これらの条件は、学部・学科・入学年度・所属コースによって異なりますので、下表を参照するとともに、「学修要覧」で確認してください。

また、学修状況によっては、クラス担任や指導教員が面談等を実施し、指導や勧告を行うこととしています。

なお、以下の単位数は、卒業要件単位数に加算されない科目（他学科科目や教職課程専門科目の一部など）の単位数は含みません。編入学生や留学生などは、別の条件が定められている場合があるので、それぞれ「学修要覧」等で確認してください。

■全学部共通

学年・学期	内 容	
1 年前期末	指導	1 年次前期終了時に修得単位数が 10 単位未満 の者に対しては、学修意欲の促進と成績向上を目的として、クラス担任が面談等の個別指導を行い、面談記録を残します。
1 年学年末	指導・勧告	1 年次終了時に修得単位数が 20 単位未満 の者に対しては、進路変更などを含めた指導を行い、勉学意志等の確認を行います。
全学年末	退学勧告	各年次終了時に以下の者には、退学勧告を行います。 ・ 2018～2019 年度入学生 f-GPA 0.3 未満 ・ 2020 年度以降入学生 f-GPA 0.6 未満
	指導	(2020 年度以降入学生対象) 各年次終了時に f-GPA 1.5 未満 の者に対しては、進路変更などを含めた指導を行い、勉学意志等の確認を行います。
4 年学年末	卒業要件	4 年以上在学し、 124 単位以上 の修得と、所属学科の卒業要件に満たない場合は卒業することができません。

■理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部／工学部・知識工学部

学年・学期	内 容	
2 年学年末	進級条件	修得単位数が 60 単位未満 の者は 3 年次へ進級できず、卒業延期が確定します。
3 年学年末 (2018 年度 以前入学生)	「卒業研究」 着手条件	休学期間を除き 3 年以上在学し、 100 単位以上 を修得していない場合、留年となり、卒業延期が確定します。「卒業研究」には次年度以降着手することになります。 なお、学部・学科・入学年度によって、別途の付帯条件があります。
3 年学年末 (2019 年度 以降入学生)	卒業研究(1) 着手条件・ 4 年次 進級条件	休学期間を除き 3 年以上在学し、 100 単位以上 を修得していない場合、留年となり、卒業延期が確定します。「卒業研究(1)」には次年度以降着手することになります。 また、学部・学科・入学年度によって、別途の付帯条件があります。 なお、4 年次後期必修科目「卒業研究(2)」は、「卒業研究(1)」に合格しなければ着手することができません。

■環境学部

学年・学期	内 容	
2 年学年末	「事例研究」 「事例研究(1)」 着手条件	3 年次必修科目「事例研究」または「事例研究(1)」に着手するための条件として、休学期間を除き 2 年以上在学し、2020 年度以前の入学生は 70 単位以上 、2021 年度以降の入学生は 66 単位以上 を修得していることが必要です。 これに満たない場合、3 年次へ進級するが、「事例研究」または「事例研究(1)」の着手は延期となり、その後の「卒業研究」着手条件にも連動して、卒業延期が確定します。
	成績不振者 への対応	2 年次終了時に修得単位数が 40 単位未満 の者に対しては、自主退学を含んだ強力な指導・勧告を行います。
3 年学年末	「卒業研究」 「卒業研究(1)」 着手条件	4 年次必修科目「卒業研究」または「卒業研究(1)」に着手するための条件として、休学期間を除き 3 年以上在学し、事例研究を含む 100 単位以上 を修得していることが必要です。これに満たない場合、4 年次へ進級するが、「卒業研究」または「卒業研究(1)」の着手は延期となり、卒業延期が確定します。 ・ 2019 年度以前入学生は、「2 年次までの必修科目を全て修得していること。」という別途条件が定められています。入学年度によって「卒業研究」の着手条件が異なりますので、詳細は、学修要覧（履修要綱）の該当ページをご確認ください。

■メディア情報学部

学年・学期	内 容	
2 年学年末	進級条件	3 年次に進級するための条件として、休学期間を除き 2 年以上在学し、2020 年度以前の入学生は 70 単位以上 、2021 年度以降の入学生は 66 単位以上 を修得していることが必要です。 これに満たない場合、3 年次へ進級できず、「事例研究」または「事例研究(1)」には、次年度以降着手することになり、この段階で卒業延期が確定します。
	成績不振者 への対応	2 年次終了時に修得単位数が 40 単位未満 の者に対しては、自主退学を含んだ強力な指導・勧告を行います。
3 年学年末	「卒業研究(1)」 着手条件	4 年次必修科目「卒業研究(1)」に着手するための条件として、休学期間を除き 3 年以上在学し、事例研究を含む 100 単位以上 を修得していることが必要です。これに満たない場合、4 年次へ進級するが、「卒業研究(1)」の着手は延期となり、卒業延期が確定します。

■デザイン・データ科学部

学年・学期	内 容	
2 年学年末	進級条件	修得単位数が 50 単位未満 の者は 3 年次へ進級できず、卒業延期が確定します。
	成績不振者 への対応	2 年次終了時に修得単位数が 40 単位未満 の者に対しては、自主退学を含んだ強力な指導・勧告を行います。
4 年前期末	「キャップストーンプロジェクト」 着手条件	4 年次必修科目「キャップストーンプロジェクト」に着手するための条件として、休学期間を除き 3 年半以上在学し、 110 単位以上 を修得していることが必要です。これに満たない場合、「キャップストーンプロジェクト」の着手は延期となり、卒業延期が確定します。

■都市生活学部

学年・学期	内容	
2 年学年末	指導・勧告	2 年次終了時に修得単位数が 40 単位未満 の者に対しては、進路変更などを含めたより強い指導を行い勉学意志等の確認を行います。
3 年学年末	「卒業研究」 「卒業研究(1)」 着手条件	休学期間を除き 3 年以上在学し、 100 単位以上 を修得していない場合、4 年次へ進級はするものの、「卒業研究」または「卒業研究(1)」には次年度以降に着手することになり、この段階で卒業延期が確定してしまいます。 なお、「卒業研究(2)」は、「卒業研究(1)」に合格しなければ着手することができません。

■人間科学部

学年・学期	内容	
3 年学年末	「卒業研究」 「卒業研究(1)」 着手条件	休学期間を除き 3 年以上在学し、 100 単位以上 を修得していない場合、4 年次へ進級はするものの、「卒業研究」または「卒業研究(1)」には次年度以降に着手することになり、この段階で卒業延期が確定してしまいます。 なお、「卒業研究(2)」は、「卒業研究(1)」に合格しなければ着手することができません。

【重要】卒業延期者の卒業研究着手の時期に関する変更について

従来、卒業研究着手の時期を学年の始め（4 月）と定めてきましたが、卒業延期者が前期末に卒業研究着手条件を充足（在学期間の条件も充足）し、当該学生が希望し、これを学科が認めた場合に限り、当該年度の後期（9 月）から卒業研究の着手を実質的に認めることとなりました（※2020 年 4 月 1 日より、在籍する全ての学部生に適用）。

11. 修業年限と卒業延期

■修業年限

本学の修業年限は、学則第 15 条「修業年限及び履修単位等」に基づき、4 年としています。4 年以上在学し、なお卒業できない場合でも、学則第 16 条「在学年数及び在学年限」に基づき、8 年を超えることはできません。また、理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部（工学部・知識工学部）、メディア情報学部及びデザイン・データ科学部については、2 年次までの在学年数は 4 年を超えることができません。ただし、休学期間是在学期間を含めません。

■卒業延期

4 年を超えて在学する場合は、4 月 30 日までに定められた所定の学費を納入しなければなりません。履修登録の方法は、原則として、前年度までの方法と同じです。なお、4 年を超えた卒業延期者に対しては、各学期末において卒業に必要な条件が充足されれば、その学期末に卒業資格が認定されます。なお、2022 年度以前入学生における卒業資格の認定時期については、学修要覧（履修要綱）の該当ページをご確認ください。

12. 2025 年度学年末終了時の学科・学年別単位修得の状況

		人数		平均 f-GPA					
		最高修得単位数	平均修得単位数						
統計日：2026 年 3 月									
学 部 / 学 科		1 年		2 年		3 年		4 年	
理工学部									
機械工学科	131 名	3. 0098	105 名	2. 7192	113 名	2. 7064	94 名	3. 0317	
	55	42. 8	97	76. 2	133	112. 9	144	126. 1	
機械システム工学科	125 名	2. 6872	104 名	2. 7738	110 名	2. 9299	102 名	3. 1024	
	51. 5	41. 2	100	76. 2	140	115. 5	151. 5	127. 1	
電気電子通信工学科	149 名	2. 8793	142 名	2. 9414	152 名	3. 0094	146 名	3. 1155	
	54	41. 6	96	81. 4	134	116. 4	150. 5	127. 7	
医用工学科	66 名	2. 9394	60 名	3. 0517	63 名	2. 9915	67 名	3. 1420	
	49	40. 5	103	80. 3	124	115. 5	137	125. 1	
応用化学科	74 名	3. 0773	69 名	2. 9515	76 名	2. 9615	87 名	2. 9623	
	54	42. 2	101	79. 2	137	115. 7	137	124. 9	
原子力安全工学科	44 名	2. 9149	45 名	2. 9379	50 名	3. 0566	40 名	3. 1125	
	56	41. 8	97	76. 2	149	114. 9	133	124. 8	
自然科学科	66 名	3. 0567	62 名	2. 8115	65 名	2. 9160	66 名	3. 1343	
	59	44. 7	115	82. 3	153	117. 7	173. 5	129. 8	
建築都市デザイン学部									
建築学科	118 名	2. 9335	114 名	2. 7795	141 名	2. 9678	133 名	3. 0591	
	52	40. 8	88	74. 3	124	112. 1	140	125. 4	
都市工学科	94 名	2. 8901	103 名	2. 8551	96 名	2. 8829	101 名	2. 9894	
	50	40. 3	90	76. 3	123	111. 5	142	125. 5	
情報工学部									
情報科学科	103 名	3. 2369	103 名	3. 1224	103 名	3. 0598	104 名	3. 2622	
	51	42. 2	106	80. 1	131	113. 4	137. 5	125. 2	
知能情報工学科	82 名	2. 7964	81 名	2. 8317	86 名	2. 8801	77 名	3. 1472	
	52	40. 4	99	77. 5	136	115. 6	135. 5	125. 1	
環境学部									
環境創生学科	97 名	3. 0642	99 名	3. 1291	94 名	2. 7882	86 名	3. 0191	
	48	41. 2	94	79. 5	120	106. 7	132	122. 0	
環境経営システム学科	97 名	2. 8148	97 名	2. 6900	89 名	2. 7259	93 名	2. 9106	
	51	41. 5	90	73. 1	132	108. 5	134	122. 2	
メディア情報学部									
社会メディア学科	93 名	2. 9869	91 名	2. 9527	97 名	2. 9652	90 名	3. 0000	
	50	42. 9	88	77. 0	120	112. 5	143	125. 6	
情報システム学科	100 名	2. 9696	101 名	2. 8624	112 名	2. 8728	94 名	3. 0878	
	49	40. 9	90	76. 0	133. 5	112. 0	133	124. 5	
デザイン・データ科学部									
デザイン・データ科学科	107 名	3. 1392	101 名	2. 8663	104 名	3. 0088	—	—	
	41	33. 1	87	74. 1	133	118. 0	—	—	
都市生活学部									
都市生活学科	173 名	2. 9297	171 名	2. 8165	175 名	2. 8750	162 名	2. 8612	
	49	41. 0	92	78. 5	127	112. 8	146	123. 9	
人間科学部									
人間科学科	112 名	3. 0692	101 名	3. 0125	93 名	3. 1198	99 名	3. 3189	
	48. 5	41. 0	96	76. 8	133	119. 9	151	136. 6	

※ 留年生、卒業延期者を除いて算出。

本学には、学部卒業後、さらに進学を志す学生のために大学院を設置しています。より高度の課程を修得するための博士前期課程〔2ヶ年〕と、さらに将来、研究能力を身につけることを志す学生のための博士後期課程〔3ヶ年〕があります。学力・人物ともに優秀な学生の大学院進学を奨めるため、3年次終了時の成績を基準に推薦入試の受験を認めています。また、学内からの進学者（内部進学者）は、入学金を免除しています。さらに、成績優秀者には、大学院奨学生制度があります。詳細はP.11を参照してください。

1. 本学の大学院概要
 (2026年5月1日現在)

課 程 専 攻		博士前期課程			博 士 後 期 課 程			
		入学定員	1年次	2年次	入学定員	3年次	4年次	5年次
総合理工学研究科	機械専攻	85	83(3)	87(6)	10	3(0)	6(0)	9(1)
	電気・化学専攻	110	123(26)	107(29)	12	8(2)	6(0)	17(5)
	共同原子力専攻	15	28(5)	22(2)	4	0(0)	3(0)	5(1)
	自然科学専攻	20	17(5)	16(6)	2	0(0)	2(2)	1(0)
	建築都市デザイン専攻 建築・都市専攻	90	76(21)	94(22)	12	7(0)	7(3)	11(0)
	情報専攻	80	84(13)	76(5)	10	4(1)	7(1)	6(1)
環境情報学研究科	環境情報学専攻	62	36(11)	30(5)	6	11(3)	11(4)	18(3)
	東京都市大学・エディスコワーン 大学国際連携環境融合科学専攻	5	0(0)	5(4)	—	—	—	—
	都市生活学専攻	18	26(14)	24(9)	6	8(3)	8(2)	12(5)
情報データ科学研究科	情報データ科学専攻	20	11(2)	—	5	4(2)	5(0)	—
合 計		505	484(100)	461(88)	67	45(11)	55(12)	79(16)

() 内は女子内数／在籍者数には修了延期者含む

本学では、博士課程を前期2年と後期3年の課程に分け、前者を博士前期課程、後者を博士後期課程と称しています。

■博士前期課程〔2ヶ年〕

○学位授与の基準

修士の学位は、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を有する者に授与します。

○修業年限と学位

博士前期課程は大学院学則の定めるところにより、所定の期間（一般的には2年間）在学し、30単位以上修得しかつ必要な教育・研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格したことをもって修了したものとします。また、総合理工学研究科と情報データ科学研究科では特定課題研究報告書によって修了する制度もあります。博士前期課程修了者には、総合理工学研究科修了の場合「修士（工学）」または「修士（理学）」の学位が、環境情報学研究科修了の場合「修士（環境情報学）」「修士（環境学）」または「修士（都市生活学）」の学位が、情報データ科学研究科修了の場合「修士（学術）」の学位が授与されます。なお、博士前期課程にあっては、4年を超えて在学することはできません。また、休学中の期間は在学期間には加えません。

■博士後期課程〔3ヶ年〕

○学位授与の基準

博士の学位は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有する者に授与します。

○修業年限と学位

博士後期課程は博士前期課程を修了した後、大学院学則の定めるところにより、所定の期間（一般的には3年間）在学し、24単位以上修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格したことをもって修了したものとします。博士後期課程修了者には、総合理工学研究科修了の場合「博士（工学）」または「博士（理学）」学位が、環境情報学研究科修了の場合「博士（環境情報学）」または「博士（都市生活学）」の学位が、情報データ科学研究科修了の場合、「博士（学術）」の学位が授与されます。（本学が適当と認めた場合、博士の学位に付記する専攻分野の名称を学術とすることができます。）なお、博士後期課程にあっては、6年を超えて在学することができません。また、休学中の期間は在学期間には加えません。

2. 入学金及び授業料：2026年4月現在

区 分		入学手続 納入金総額	分 納 希 望 者 の 場 合	
			入学手続時	10月20日まで
入 学 金		200,000円	200,000円	—
授 業 料	総合理工学研究科	1,122,000円	561,000円	561,000円
	環境情報学研究科	1,026,000円	513,000円	513,000円
	情報データ科学研究科	1,026,000円	513,000円	513,000円

※上表のうち、東京都市大学大学院研究科奨学規程により、**本学学内進学者（卒業年月の直後に進学した場合に限る）**については**入学金が免除**されます。
 ※本学の授業料は経済情勢等を踏まえ、在学中に見直し、改定を行うことがあります。

3. 入学試験

本学の大学院入試は年間3回実施しています。A日程の「推薦入試」では、3年次終了時の成績順位が学科全体の上位1／2以内で、本学大学院への進学を第一希望とするなどの諸条件を満たした学生に受験を認めています。
 B日程・C日程は「一般入試」等になります。詳細は本学Webサイトに掲出する募集要項をご確認ください。

■大学院総合理工学研究科 博士前期課程 の入試スケジュールと過去3ヶ年の状況

試験区分	出 願 期 間	試験日・試験内容		合格発表
A日程[推薦入試]	2026年5/13(水)～5/20(水)	6/10(水)	書類審査、面接試験	6/29(月)
B日程	2026年7/15(水)～7/22(水)	8/26(水)～8/28(金)	書類審査、外国語科目（英語）・専門科目、面接試験	9/ 7(月)
C日程	2027年1/ 7(木)～1/14(木)	2/12(金)および2/15(月), 2/16(火)	書類審査、外国語科目（英語）・専門科目、面接試験	3/ 5(金)

※博士後期課程の日程・試験の詳細は別途お問い合わせください。

試験 年度	A日程 [推薦入試]		B日程		C日程		合 計	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
2024年度	237名	237名	93名	76名	33名	20名	363名	333名
2025年度	256名	254名	126名	91名	42名	30名	424名	375名
2026年度	302名	301名	142名	102名	48名	38名	492名	441名

■大学院環境情報学研究科 博士前期課程 の入試スケジュールと過去3ヶ年の状況

試験区分	出 願 期 間	試験日・試験内容		合格発表
A日程[推薦入試]	2026年5/13(水)～5/20(水)	6/10(水)	書類審査、面接試験	6/22(月)
B日程	2026年7/15(水)～7/22(水)	8/27(木)	書類審査、領域毎の専門試験、面接試験	9/ 7(月)
C日程	2027年1/ 7(木)～1/14(木)	2/15(月)	書類審査、領域毎の専門試験、面接試験	2/24(水)

※博士後期課程の試験の詳細は別途お問い合わせください。

試験 年度	A日程 [推薦入試]		B日程		C日程		合 計	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
2024年度	20名	20名	20名	18名	16名	14名	56名	52名
2025年度	28名	28名	16名	16名	10名	9名	54名	53名
2026年度	26名	25名	27名	25名	20名	20名	73名	70名

■大学院情報データ科学研究科 博士前期課程 の入試スケジュールと昨年の状況

試験区分	出 願 期 間	試験日・試験内容		合格発表
A日程[推薦入試]	2026年5/13(水)～5/20(水)	6/10(水)	書類審査、面接試験	6/22(月)
B日程	2026年7/15(水)～7/22(水)	8/27(木)	書類審査、分野毎の専門試験、面接試験	9/ 7(月)
C日程	2027年1/ 7(木)～1/14(木)	2/15(月)	書類審査、分野毎の専門試験、面接試験	2/24(水)

※博士後期課程の試験の詳細は別途お問い合わせください。

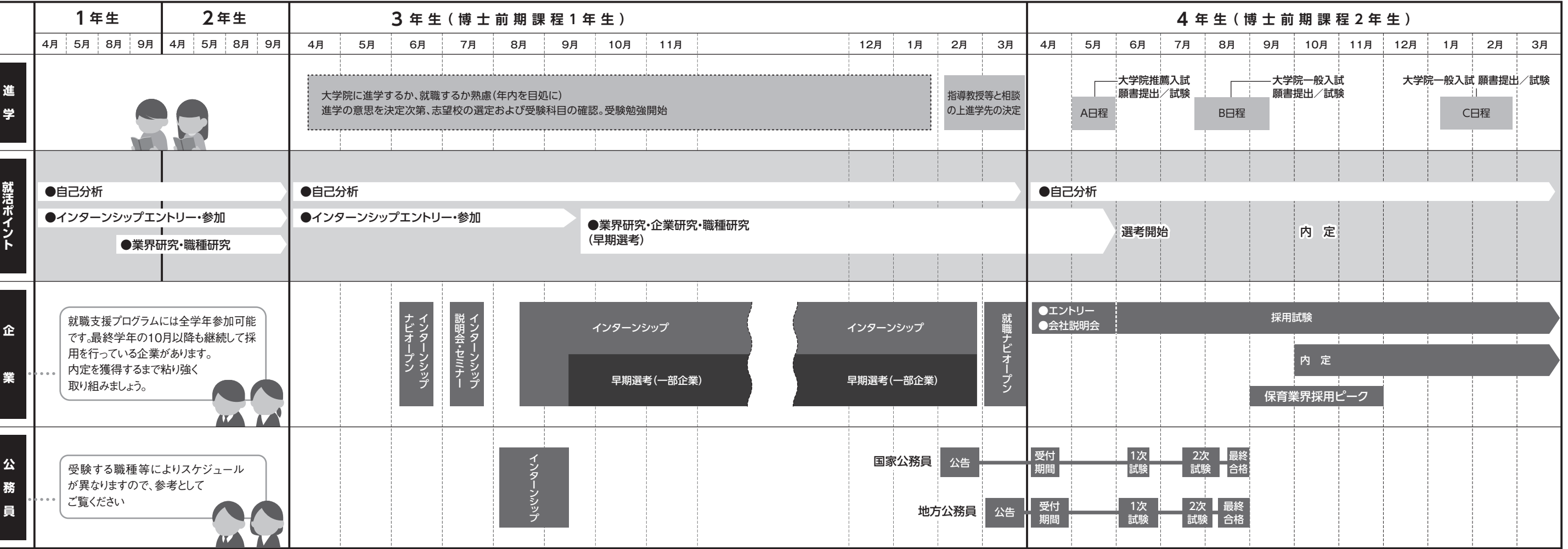
試験 年度	A日程 [推薦入試]		B日程		C日程		合 計	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
2026年度	3名	3名	3名	3名	5名	5名	11名	11名

保証人の皆様の時代と比べると、就職を取り巻く環境は大きく変化しています。かつてはハガキや FAX で行っていた企業の資料請求は、現在では多くのプロセスが WEB を活用したデジタルツールに置き換わっています。就職氷河期、リーマンショック、コロナショックといった大きな経済的変動で就職が厳しい時期もありましたが、直近では学生に有利な「売り手市場」と呼ばれる状況が続いており、就職環境は好調を維持しています。一方で、企業の採用手法は多様化し、学生も企業ごとの採用スケジュールや選考方法に対応するため、さまざまな準備や対策に迫られるようになっていきます。そのような中、本学の2026年3月卒業・修了予定者の就職（内定）率は全学で98.8%となり、昨年度に引き続き堅調な実績を残すことができました。

2027年3月卒業予定（現4年生）の就職活動では、3年生の夏や秋冬に行われる、インターンシップや半日～1日で開催される1DAY 仕事体験（オープンカンパニー）などを通じて、早期選考につながる動きが昨年度以上に加速しており、「就活の早期化」が問題視されています。また、従来の「メンバーシップ型」から、職務を限定した専門職を採用する「ジョブ型採用」へと移行する企業も、大企業を中心に徐々に増加しており、採用の多様化が進んでいます。さらに、新卒初任給の引き上げが相次ぐ一方で、自由応募後の推薦提出を求められたり、いわゆる「オワハラ（就活終われハラスメント）」と呼ばれる企業からの圧力も見られ、人材確保に企業側が苦慮している様子もうかがえます。これも「売り手市場」の影響の一端といえます。

これから就職活動に臨む学生はもちろん、保証人の皆様におかれましても、納得のいく企業への就職を実現するために、どのような点を押さえておくべきか、以下に8つのポイントに分けてご紹介いたします。就職活動においては、ご家庭での支援も非常に重要です。現状へのご理解を深めていただくとともに、ご家庭で実践できる対応策や準備についてもご案内いたします。ぜひ、保証人の皆様にも適切なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026年3月卒業学生のスケジュール（参考）



1. 就職活動の時期について

対 象 年 度	求人票公開・説明会開始	採用選考開始
2027 年 3 月 卒 業 (現 4 年・博士前期 2 年)	(3 年・博士前期 1 年の) 3 月 1 日	(4 年・博士前期 2 年の) 6 月 1 日
2028 年 3 月 卒 業 (現 3 年・博士前期 1 年)	(3 年・博士前期 1 年の) 3 月 1 日	(4 年・博士前期 2 年の) 6 月 1 日

2017 年 3 月卒以降、大きなスケジュール変更はなく、3 月から求人票が公開され、6 月から選考が開始されるルールは続いています。しかし、2018 年に産業界の代表として採用スケジュールやルールの策定を主導していた日本経済団体連合会（経団連）が、従来の枠組みの見直しを宣言しました。これに伴い、2020 年 3 月卒以降、採用選考開始日を遵守しない企業が多数現れ、残念ながら採用の早期化が一層進行しています。さらに、コロナショック以降は採用活動そのものが多様化する傾向にあり、就職活動のスケジュールは大きな転換期を迎えていると言えるでしょう。学生本人だけでなく、ご家族の皆様にとっても納得のいく進路選択を実現するためには、事前に正確な情報を得て、早い段階から準備を進めることが重要です。

■就活のスタートはいつ…？ 就職活動今昔

現在の就職活動は、「ハガキからインターネットへ」「4 年生から 3 年生スタートへ」「対面形式からオンライン形式へ」と大きく変化しています。かつては「掲示板に貼られた求人票を見る」「ハガキで資料請求をする」「数社の説明会に参加する」といった流れで内定を得るのが一般的でした。しかし現在では、「WEB で求人を検索」「“WEB エントリー”で資料請求や説明会を予約」「数十社の説明会にオンラインで参加する」といったように、就職活動のスタイルは大きく様変わりしています。

■内定までの道のりを知る 2年間の流れ（2028年3月卒(現3年生)の場合）

就職活動の流れについては、『3年生の前期』から『内定獲得まで』を前頁の表にまとめております。しかし、前述のとおり、2021年3月卒業予定者向けの募集から、経団連が定めていた指針は廃止され、政府と大学が要請していた従来のスケジュールも形骸化しています。経団連に加盟していない外資系企業に限らず、多くの企業が夏や秋冬に「インターンシップ」や「1DAY 仕事体験（オープンカンパニー）」といったイベントを実施し、そこから選考が始まり、3年生の11月には内々定が出ることも珍しくない状況となっています。ここでは、かつての指針をもとに、ポイントとなる時期ごとの流れを示しておりますが、今後は実施方法や時期が変更される可能性もあります。そのため、自分が志望する業界・企業の動きを敏感に察知するアンテナを張り、エントリーに遅れないよう、早めに対策を講じることが重要です。

（1）3年生4月・就職情報サイトがスタート ～就職情報サイトオープン&インターンシップセミナー～

就職活動の最初の大きなイベントは、3年生の4月から始まる「インターンシップエントリーの開始」と「インターンシップセミナー」です。4月以降、「マイナビ」や「リクナビ」などの就職情報サイトで、夏に実施されるインターンシップ情報が公開され、スマートフォンなどからエントリーが可能になります。大型の対面イベントや企業説明会も随時開催されます。学内でも数多くの卒業生が在籍している企業を招いての「インターンシップ企業研究会」を実施しています。なお、省庁や自治体のインターンシップは独自サイトで情報が公開され、締切が5月中のこともあるため、大手サイトだけでなく各機関の公式サイトも確認することが重要です。

（2）3年生3月・本格スタート ～エントリー開始&合同企業説明会～

指針では、企業の広報活動がスタートし、求人票の公開や全国規模の合同企業説明会・セミナーが解禁されるタイミングとなります。「マイナビ」や「リクナビ」といった就職情報サイトも、3月1日から正式に求人情報を公開します。しかし、リクルートの調査によると、2026年3月1日時点での27年卒の内定率はすでに38.1%（前年は48.4%）、5月1日時点では67.0%（前年は75.8%）に達しており、多くの企業や学生が3月以前から動いていることがわかります（リクルートの調査方法の特性により、実際より高めの数値が出る傾向があります）。

また、早期選考の案内は、インターンシップやオープンカンパニーに参加した学生のみに通知されることが多く、情報はあまり表に出ずに水面下で進行します。一方で、早期選考で内々定を得た学生でも就職活動を継続するケースは多く、3月に公開される求人情報から改めてエントリーし、内定先よりも規模の大きな企業に挑戦することも一般的です。ただし、業界や企業規模によって動きには差があるため、希望する業界や企業の情報収集は欠かせません。3月以降は、企業規模を問わず多くの企業で採用活動が本格化し、企業独自の「説明会」のほか、「書類審査」「筆記試験」「面接」「グループディスカッション」など、さまざまな選考ステップが進行していくことを想定する必要があります。現在ではオンラインによる説明会や面接も一般的ですが、対面で人物をより正確に評価しようとする動きも見られるため、両形式に対応できる準備が求められます。業界や企業によって選考開始時期にばらつきがあるため、「早い段階からどれだけ準備できるか」が大きなポイントとなります。

（3）4年生6月 ～公に言われる採用選考スタート～

本来、選考解禁は6月とされていますが、前述のとおり、実際には3～4月が内々定通知のピークとなっており、選考期間の早期化が加速しています。そのため、第1希望の企業の選考スケジュールや選考方法について正確な情報を収集し、選考に向けた準備をどれだけ整えられるかが、結果を大きく左右します。繰り返しになりますが、企業研究・情報収集、自己分析、筆記試験対策、スケジュール管理など、「準備」が非常に重要です。

また、短期間で採用予定数を確保できない企業の採用活動が「長期化」することも想定されます。周囲が就職活動を終えたからといって焦らず、粘り強く活動を続けることも大切です。例年、卒業直前の4年生の2月や3月に内定を獲得する学生も少なくありません。

2. 課題を知り、対策を立てる！

■選考のポイント…主体性・自己表現力

学生に人気のある従業員5,000人以上の大手企業の求人倍率は、10年以上にわたり1倍を下回っており、近年では0.5倍を切る水準で、実際には企業有利の「買い手市場」となっています。これは大手に限らず、すべての企業の選考に共通する傾向ですが、人事担当者はどこに注目して学生を評価しているのでしょうか。ある調査によると、最も重視されているのは「主体性」です。面接では「自ら考え、行動した経験とその結果」が問われることが多く、グループディスカッションやグループワークでも、積極的に動く学生が高く評価されます。ただし、主体性は一朝一夕で身につくものではなく、普段からの行動習慣が問われます。また、面接では「これまでの経験」をもとに話す必要があるため、付け焼刃では通用しません。さらに、「自己表現力」も重要視されており、自分の考えを言語化し、相手に伝える力は、ビジネスにおいても不可欠な能力です。

■低学年からの支援

このような厳しい状況に対応するため、特に低学年からの日常的な対策が求められています。本学ではカリキュラムの中にキャリア教育を取り入れている学部があるほか、低学年から就業意識向上のための取り組みを展開しています。具体的には、入学時より『TCU FORCE（2018年より導入）』を活用し、大学生活の記録を蓄積（自己分析に活用）するほか、半期ごとに「目標設定」「振り返り」「目標再設定」を行い、自らPDCAを回す力を養います。また、社会から求められる汎用的な力を測定するアセスメントテストを実施し、授業や学生生活を通じた「成長」を支援しています。こうした本学のキャリア支援策は高く評価されていますが、今後もその評価に甘んじることなく、より充実した支援体系の構築を目指してまいります。

そうした大学の支援に加え、以下のような点もぜひ心がけていただきたいと考えています。

（1）業界や企業を知る

「3年3割」という言葉があります。情報収集手段が多様化した現在でも、「大学卒業後、約3～4割が3年以内に離職する」と言われています。こうしたミスマッチを防ぐためにも、低学年のうちから多くの企業を調べ、自分に合う企業を見つけることが重要です。実際の面接では「なぜこの会社を選んだのか」「どのように貢献できるか」「学生時代の学びをどう活かすか」といった深い質問がされるため、十分な企業研究が必要です。1・2年生でもインターンシップやオープンカンパニーに参加できる機会は多く、積極的な参加が推奨されます。参加を通じて、社会で求められる知識やスキルに気づき、大学での学びの充実にもつながります。

（2）「過去の経験」が必要

面接では「過去の経験や体験を語る」ことが求められます。単なる自己アピールではなく、「実際にこんな経験があった」という事例をもとに、自分のスキルや長所、パーソナリティをPRする必要があります。この「過去の経験のまとめ方」の良し悪しが、面接の成否に直結します。そのため、「研究」「勉強」「部活・サークル」「アルバイト」など、さまざまな経験を積むことが求められます。これらの活動に積極的に取り組むことは、学生生活の充実にもつながります。就職活動対策にとどまらず、幅広い挑戦を通じて人間的な成長を促すよう、ぜひご助言ください。

■3年生になったら

就活スケジュールが流動的になっている今、各業界や企業の動きも不透明です。3年生の4月から始まる夏のインターンシップやオープンカンパニーに積極的に参加し、納得のいく就職につなげることが重要です。大学院進学を希望する場合でも、「院卒に求められる知識やスキル」を確認するうえで、インターンシップ参加は有益です。

本学では、3年生の対策ポイントを以下のように位置づけています。

- (1) インターンシップイベント（4月～）に参加する
- (2) 随時情報収集し、インターンシップ・オープンカンパニーにエントリーする（民間・公務員とも）
- (3) インターンシップからの早期選考に備えて準備を進める
- (4) 履歴書・エントリーシートを早めに作成し、キャリア支援課などで添削を受ける
- (5) エントリー（3月）を確実に行う（3月以前から動けるよう準備）
- (6) リクルーターやOBOGによる支援会・セミナーに参加する
- (7) 学内外の業界研究・企業研究会や個別相談を活用する
- (8) 筆記試験対策を行う

これらの項目は、前述の「■内定までの道のりを知る 2年間の流れ」にも解説がありますので、ぜひご参照ください。なお、(7)の個別相談については、各キャンパスのキャリア支援課にて、専門のキャリアカウンセラーが個別に相談・アドバイスをを行っています。

3. 全国屈指のサポート、ご活用ください！

これまでご説明申し上げて参りました通り、就職活動は非常に長期にわたり、専門的な支援を要する活動となります。そのため、キャリア支援課ではスキル・ノウハウ面ではもちろん、精神的な支援も充実させています。

■ここまで充実！就職サポート

世田谷キャンパスの理工系学部においては、就職担当教員を中心に企業との密なコミュニケーションを通じて、堅実に内定を獲得する学生が多く、武蔵工大時代からの伝統として、専門性の高い学びを活かし安定した実績を上げています。各種支援講座も充実しており、民間企業だけでなく公務員系にも毎年多くの学生が就職しています。都市生活学部では、3年生を対象に必修授業としてキャリアデザインを実施し、ワークキャリアに関する基本的な知識から実践的な方法までを身につける取り組みを行っています。また、人間科学部では、保育実習や幼稚園教育実習などの体験的な科目を通じて実社会や他者と関わり、学生のワークキャリアを刺激しています。

横浜キャンパスでは、3年生の前期と後期に「進路個別面談」を実施し、進学を含めた学生一人ひとりの進捗に応じたアドバイスをを行っています。さらに、インターンシップや就職に向けた講座を適切な時期に多数実施し、必要な知識と実力を着実に養えるよう、手厚い支援体制を整えています。

このように、文系・理系など学科の特性を踏まえたキャリア開発や就職支援のためのガイダンス・セミナーをきめ細かくプログラムし、日常的に学生のキャリア意識を高めています。就職プログラムの多くは無料（一部講座は有料）で自由に参加可能です。また、各キャンパスで実施される特色ある就職プログラムやキャリア支援課のサポートは相互に利用でき、総合大学ならではの多彩で手厚い支援体制を享受できます。

■個別相談が成功のカギです

ガイダンスでの集合学習や、伝統的な企業とのネットワークも重要ですが、さらに大切なのは「個別相談」で質問したり、アドバイスを受けることです。各キャンパスでは、学生が気軽に相談できる環境づくりを進めており、専門のキャリアカウンセラーが常駐しています。就職活動全般に関する疑問や質問への対応はもちろん、面接練習や書類添削など、実践的なサポートも受けられます。

さらに「進路面談」として、3年生および博士前期課程1年生全員を対象に、理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部・総合理工学研究科では就職担当教員とキャリア支援課が、環境学部・メディア情報学部・デザイン・データ科学部・都市生活学部・人間科学部・環境情報学研究科・情報データ科学研究科ではゼミ担当教員とキャリア支援課が連携し、きめ細かな面談を実施しています。これにより、自己理解の促進や本格的な就職活動に向けた現状確認、準備活動などのアドバイスをを行い、一人ひとりの望ましいキャリア形成を支援しています。

就職や進学など進路を選択する際に非常に重要な面談ですので、ご家庭内でもぜひ参加を促していただきますようお願いいたします。

■学校推薦について

建学以来90年超の歴史を持つ本学では、特に技術系の学生を求める企業を中心に多数の学校推薦をいただいております。学業・人物が優秀で、対象企業を第一志望とする学生に対して大学が推薦をする制度で、一般の選考に比べて有利な活動を進めることが出来るとともに、社会で活躍しているリクルーターによる支援を受けられるのも強みです。選考基準や対象企業は採用年度・学部・学科ごとに異なります。

4. 成功のカギ インターンシップ

従来、インターンシップは「在学中に社会人の仕事を体験し、就業意識や職業観を育む」ことを目的として、特に夏期休業中に企業に派遣され、実際の業務や社会人の生活リズムを体験する活動とされてきました。近年では、そうした本来の目的に加え、業界研究などの要素も加わり、「プレ就職活動」としての意味合いも強まっています。また、就職活動時に有利に働くこともあるため、興味のある業界・企業のインターンシップには積極的に参加することをお勧めします。

大学院進学を検討している場合でも、インターンシップに参加することで「企業が院卒に求める知識やスキル」を具体的にイメージでき、大学院で身につけるべき内容が明確になります。

特に本学の特色である東急グループ各社とのインターンシップや、大学から奨学金の支給を受けられる海外インターンシップには、ぜひ積極的にチャレンジするようご家庭でもお伝えください。

■多様化するインターンシップ

上述の採用選考や、大学が紹介して単位化するインターンシップ以外にも、一般公募型のインターンシップでは、面接などの選考を伴う形態が増えています。このように「就職活動の前哨戦」としてインターンシップを活用するケースも見られるなど、目的や形式が多様化してきています。

また、2025年3月卒以降の学生を対象に、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の三省合意により、インターンシップに関する新たな考え方が示されました。一定の条件を満たすインターンシッププログラムであれば、3月以降の採用選考につなげることが認められています。

一方で、従来の1DAY 仕事体験に近い「オープンカンパニー」など、半日程度のプログラムでも水面下で早期選考につながっている現状もあり、今まで以上に正確な情報を得ながら、就職活動の準備を進めることが求められます。

■インターンシップの積極的活用法

こうした多様なインターンシップを活用し、多くの成果が得られるよう、以下のポイントに整理しました。

- 長期型・単位認定型インターンシップ → 実際の就業体験を行うことが条件となっている
- 短期型・オープンカンパニー等 → 見学会、業界説明、グループワークを行うことが多い

その他、「公務員」等にもインターンシップがあります。詳細は各キャンパスのキャリア支援課で紹介しておりますので、ぜひご相談ください。

5. Uターン就職について

保証人の皆様の中には、卒業後は「Uターンで地元に戻ってきて就職してほしい」とご希望されている方が多くいらっしゃることも存じます。

■Uターン就活上の「ハンデ」

- 地理的遠さ ……………首都圏と地元を行き来する移動に要する時間・費用
- 地元大学との競合 ……地元企業は地元大学出身者が多く、首都圏大学出身者が少数
- 求人情報の差 ……………全国型の就職情報サイトに掲載されない企業が多く、発見しにくい
- 求人数の差 ……………企業数が少ない、あるいは希望の職種が見つけにくい

■Uターン就職を成功させるには

情報収集が鍵となります。つまり、成功のポイントは地元企業や地域の情報をどれだけ把握できるかにかかっています。地元主催の合同企業説明会への参加や、各自治体の首都圏相談窓口の活用など、積極的な行動が必要です。近年では、都道府県庁や市区町村の情報提供が充実しており、地元新聞社などが就職関連情報を発信している場合もあります。また、地元企業が首都圏で説明会を開催したり、オンラインで説明会を実施するケースも増えてきているため、積極的に活用してください。休暇期間を有効に使い、保証人や親戚、友人と連携して情報収集を行うことも大切です。地元大学との競合が想定される場合には、親元を離れて生活した経験や自立性をアピールすることも有効です。いずれの場合でも、帰省時などに本人の意向を踏まえ、事前によく話し合ったうえで方針を決めることをお勧めします。

6. 公務員就職について

例年、公務員への就職を希望する学生が一定数います。特に地方にUターンする場合、公務員は非常に有望な就職先となり得ますし、技術系職種は行政職に比べて例年倍率が低く、理工系の学生には有利な傾向があります。「いつ頃から対策すればよいのか?」「民間企業との併願は可能か?」など、疑問を持つ方も多いかと思います。現在、民間企業の採用が早期化しているため、公務員試験より先に民間企業から内々定が出て「内定承諾書」の提出を求められるケースもあります。併願を考える場合はどちらを優先するかを事前によく検討しておくことが重要です。

また、「いつから勉強を始めるべきか」については、基本的に“早めの対策が重要”です。公務員試験は学科試験の範囲が広いため、早期からの準備が必要です。最近では民間と同様にSPI や面接選考だけで採用が決まるなど、公務員の採用手法も多様化しつつあります。

7. 保育業界（保育園・幼稚園・施設等）への就職について

待機児童数の減少により、増加傾向にあった保育園等の新規開設は現在、減少傾向にあります。今後、公立・私立を問わず、少子化の影響を徐々に受ける可能性はありますが、共働き家庭の増加などにより、都市部では依然として保育人材の不足が続いています。保育業界では基本的に欠員補充の形で採用が行われ、退職者数や新年度の園児数を踏まえて採用数が決定されます。例年、公立は6月頃から、私立は9月から翌年2月頃にかけて採用試験が実施されます。私立園では、実習やアルバイト、ボランティアなどで関わった園にそのまま就職するケースも多く、日頃から園や施設との関係を築いておくことが大切です。

8. ご家庭でできる支援とポイント

■家族だからこそサポート

就職活動では「自分がどんなキャラクターであるのか／どんな強みを持っているのか」を「過去の経験を交えて」PRしていく必要があります。そこで、どんな性格や個性・強みがあるのかということや、本人が見過ごしている過去に取り組んできた経験など、「家族だからこそわかる」アドバイスを心がけてください。

また、「職業選択」の際にも、ご自身の仕事上の経験をお話することや、親戚や知人などの社会人と話す機会を作ることも、有効な支援になります。

■サポートをする際の注意ポイント

NG! 本人の活動に立ち入り過ぎない

最近では、本人に代わって履歴書・エントリーシートの作成や説明会に参加してしまうケース、セミナーや面接の欠席連絡を本人に代わってするケースなど、学生本人の活動に深く立ち入ってしまう親の存在が問題になっています。本学においても、企業の採用担当より、学生の保証人から直接問い合わせを受けたとの報告がありました。「心配だから手伝う」のは親・家族ならではの気持ちですが、就職活動は、『独り立ち』のための活動です。過度な介入はかえって活動の妨げとなり、学生の評価を下げることにもなります。

NG! 昔のやり方・ご自身の経験だけで判断したり、決めつけたりしない

就職活動の内容が大きく様変わりし、これまでの社会での成功体験が必ずしも当てはまらないケースもあるということをご理解ください。「おしつけ・決めつけ」は時としてプレッシャーや反発を招きますし、過度な叱咤激励や心配はかえって本人の重荷になることもあります。求められた際の精神的な支援「まず聴く」「いったん認める」「理解しようと努力する」や金銭的支援「スーツ購入」「交通費」をご検討ください。

NG! 『比較』はプレッシャーになる

兄弟やよそのご家庭のことなど、「〇〇さんはもう決まったよ」「〇〇さんは大手企業に内定したよ」などといった発言で本人が追い込まれることもあります。どの企業に入社するか、いつ決まるかはあくまで本人次第、優劣ではなく個性によるものです。本人の意向を第一に理解し、支援してください。

以上、就職活動ではナーバスな点や様々な困難がありますが、まずは本人の活動であることをご理解ください。一方で、「本人任せという放置」は良い結果を生みませんので、『聴く姿勢』での『家族の対話』を心がけていただき、本人の意向をきちんと汲み取り、適度な距離でご支援いただきますようお願いいたします。

東京都市大学後援会の活動

本日の「保証人対象 大学との連絡会」は、大学と東京都市大学後援会により共催されました。

東京都市大学後援会は、在学生の保証人有志の協力により設立され、1989（平成元）年4月から後援会活動が始まり、今年で38年目を迎えました。この会は、「在学生の保証人を正会員として構成される団体で、その目的を大学の教育方針に則り大学と保証人との連携を緊密にして在学生の修学、学生生活の向上を助け、大学の発展に寄与するとともに会員相互の親睦を図ること」を目的としています。主な事業は以下のとおりです。

・正課外教育援助・顕彰／大学行事への協力

後援会では、課外活動の活性化を図るため、学生団体への援助の他「課外活動に対する補助制度（年3回募集）」「課外・学術活動奨励賞の授与」「後援会長賞の授与」等により、学生団体の特色ある活動や優れた課外活動への援助・顕彰を行います。また、体育祭、東京都市大学横浜祭、世田谷祭等の全学的な学生行事・企画に対する援助も行っています。

・学生厚生援助

学生生活を送るうえで必要な厚生施設や設備充実のための援助を行います。

・新入生の研修行事・就職活動への援助

毎年4月に行われる新入生の研修行事（フレッシュャーズ・キャンプ）に対して、その費用の一部を援助しています。また、1年生より、就職活動の援助として大学で実施される模擬試験等の費用を援助しています。

・学生緊急経済援助制度

1994（平成6）年度より後援会では、正会員の家計が急変し、学業の継続が困難になった学生に対して授業料半期分を貸与する「後援会緊急奨学金制度」を設けました。不慮の事態に遭遇した学生には、修学を継続するうえで貴重な制度となっています。

・会報「TCU-COM」の発行・ホームページによる情報の発信

後援会の活動とあわせて、学内の情報や学生たちの素顔等をお知らせするために、年2回会報「TCU-COM」を発行しています。ホームページでは会誌のバックナンバーや、最新号発行までの間のニュース等、話題を提供しており、また、メールによる問い合わせや質問にも応じています。

・「保証人対象 大学との連絡会」の開催

大学と保証人との親睦を図るとともに、学生の諸問題を共有し相談するという趣旨のもと、大学と後援会との共催で年1回全国各地において開催しております。

■2026年度は、仙台・宇都宮・水戸・高崎・新潟・甲府・沼津・静岡・名古屋・広島・福岡　及び大会会場の世田谷キャンパス・横浜キャンパス　全13会場にて開催。

問い合わせ先

■東京都市大学内　東京都市大学後援会

〒158-8557　東京都世田谷区玉堤 1-28-1　Tel: 03-6809-7571
Mail:kouenkai@tcu.ac.jp　URL: <http://www.comm.tcu.ac.jp/kouenkai/>

このたびは、「2026 年度 保証人対象 大学との連絡会」にご参加いただきありがとうございました。
本学では、学修や学生生活、進路に関する相談・手続きについては、学生本人からの相談を基本としております。
ご不明な点がございましたら、まずは学生ご本人より下記担当窓口へご相談くださいますようお願いください。

問い合わせ先

学修・大学院に関することは・・・
教学課（世田谷キャンパス・横浜キャンパス）

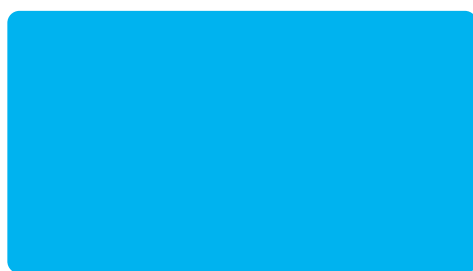
課外活動・奨学金等の学生生活に関することは・・・
学生支援課（世田谷キャンパス・横浜キャンパス）

就職に関することは・・・
キャリア支援課（世田谷キャンパス・横浜キャンパス）

■世田谷キャンパス ＜理工学部、工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部、
都市生活学部、人間科学部＞
〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1

■横浜キャンパス ＜環境学部、メディア情報学部、デザイン・データ科学部＞
〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3-3-1

（ 発 行 ）
東京都世田谷区玉堤 1-28-1
東京都市大学 学生支援課
（ 印 刷 ）
東京都千代田区神田三崎町 3-10-17
株式会社 ハクト



東京都市大学

附属中学校・高等学校

等々力中学校・高等学校

塩尻高等学校

附属小学校

二子幼稚園